

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 3 年計画の 1 年目)

## 1. 研究課題

(和文) 日本宗教史像の再構築

(英文) **Reconstructing Japanese Religious Histories**

## 2. 研究代表者氏名

大谷栄一

## 3. 研究期間

2014 年 04 月 - 2017 年 03 月 (1 年度目)

## 4. 研究目的

近年、日本宗教史の研究は新たなステージを迎えている。近代仏教史を例に挙げれば、従来の研究が更新されつつある。長年、この分野を牽引してきた吉田久一、柏原祐泉、池田英俊らの研究に多大な実証的成果を認める一方、宗教史的事実の位置付けに一定の「偏向」があることも徐々に明らかとなってきた。たとえば、神智学協会会長・オルコットの来日（明治 22 年）という出来事の宗教史的意義が検討されることはまれだった。しかし実際には、来日したオルコットは各地で大歓迎され、一種の仏教リバイバルを引き起こした。ここに、「神智学」のオカルティズムに対する近代仏教研究側の予見があったことは認めざるを得ない。すなわち、近代主義的な「宗教」観に基づく事例の取捨選択が強固に作用していたのである。こうした既存の宗教史研究の「近代主義的」なバイアスを解きほぐし、それによって不可視化されていた事象に光を当て、新たな日本宗教史像を構築していくことが本研究の目的である。

## 5. 本年度の研究実施状況

2014 年度 4/26 第 1 回「共同研究の開始にあたって」 6/28 第 2 回「神の声を聴く――カオダイ教、道院、大本教の神託比較研究」 7/27 第 3 回「近代日本宗教史における〈皇道〉のポリティクス」 10/5 第 4 回「帝国日本と民間信仰」 11/16 第 5 回「近世仏教像の新たな構築に向けて―真宗論からのアプローチ―」 12/12-14 国際ワークショップ **Asian Buddhism: plural colonialisms and plural modernities - workshop #3 - Kyoto**  
(以上、2015 年 1 月 9 日現在)

## 8. 共同研究会に関連した公表実績

2014 年 12 月 12-14 日 国際シンポジウム"**Asian Buddhism: plural colonialisms and plural modernities - workshop #3 - Kyoto**" (龍谷大学アジア仏教文化研究センター、仏教伝道協会と共同主催)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機 関 数	参加人数					延べ人数				
		総 計	外 国 人	大 学 院 生	若 手 研 究 者	女 性 数	総 計	外 国 人	大 学 院 生	若 手 研 究 者	女 性 数
所内	1	6	1	1	0	2	20	2	2	0	2
学内(法人内)	1	5	0	3	3		10	0	5	5	0
国立大学	6	10	2	4	2	2	40	5	10	5	5
公立大学	4	5	0	2	2	2	25	0	5	5	5
私立大学	22	30	0	8	5	5	100	0	30	20	20
大学共同利用 機関法人	1	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0
独立行政法人 等公的研究機 関	1	1	0	0	0	1	5	0	0	0	0
民間機関	4	5	0	0	2	2	20	0	0	5	5
外国機関	20	20	20	5	5	5	40	20	10	10	10
その他	0	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0
計	60	93	23	23	19	19	274	27	62	50	47

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	0
国際学術誌に掲載された論文数	0

※ ( ) 内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合

役割	
総論文数	0
国際学術誌に掲載された論文数	0

※ ( ) 内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

理由			
掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

